

東京葵ライオンズクラブ 戦没者追悼慰霊

4月2日、東京葵ライオンズクラブ主催による第49回千鳥ヶ淵戦没者墓苑戦没者追悼慰霊が参列者約80名の参加者を得て執り行われた。

本年も感染防止の観点から、例年行われている全国友好葵ライオンズクラブから持ち寄られた郷土の水の献水の儀、日舞奉演、小学生による音楽奉奏等は実施されなかったものの、戦没者慰霊に相応しく厳粛に執り行われた。

式典では国家斉唱に始まり、引き続き行われた主催者挨拶において、東京葵ライオンズクラブの瀬戸口正之会長は「戦後の日本は平和な社会を実現するとともに反映を築き素晴らしい先進国となった。この平和と繁栄の陰には、祖国日本のために戦い、尊い命を捧げられたという事実を忘れてはならない。この墓苑には現在370、108柱のご遺骨が奉安されている。この歴史を子や孫の世代に語り継いでいくことは、今日を生きている私たちの責務である。今日の日本のために尊い礎となられた御霊に対し、改めて敬意と感謝の心を捧げ、謹んで安らかならんことをお祈り申し上げる」と述べ、戦没者慰霊とこれに至った歴史継承の重要性について説いた。引き続き、来賓挨拶、アクティビティの贈呈、これ



に対する謝辞の後、参列者による献花が行われた。最後に大和田副会長による閉会の挨拶が行われ式典は終了した。東京葵ライオンズクラブは徳川ゆかりの地である東京、名古屋、和歌山、水戸等の各地で結成以来、毎春に戦没者追悼慰霊式典を行うほか、秋には会員による墓苑の清掃奉仕活動を行っている。

龍雲寺御詠歌慰霊法要

4月6日、臨済宗妙心寺派の龍雲寺が主催する御詠歌慰霊法要が執り行われた。25名の参加者は般若心経を唱えた後、鈴に合わせて、三宝恭敬御和讃、三宝恭敬御詠歌(三宝節)、追善御和讃、追善御詠歌に続き、戦没者追悼御和讃、戦没者追弔御詠歌(和光節)みほとけは御詠歌、四弘誓願文などを唱和し戦没者のご冥福を祈った。



法華宗(本門流)宗務院 戦没者慰霊法要

4月11日、全国の法華宗の僧侶、檀信徒約30名が参列して、法華宗(本門流)宗務院主催の千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要が執り行われた。墓苑本屋内の祭壇には曼荼羅の本尊が祀られ、一同が南無妙法蓮華経を唱題する中、導師の金井宗務院長が入場・着座し法要が開始された。

法要は勧請、方便品、讃鏡錢、自我偈対揚、神力訓等と続き、最後に宗務院長による挨拶が行われて終了した。例年と比較し、規模を縮小せざるを得ない法要ではあったが、参列者一人一人による、心のこもった唱題が墓苑内に響き渡る法要と



者法要が開催されて以来、緊急事態宣言により墓苑が閉苑中であつた一昨年を除き毎年続けられている。

【硫黄島における遺骨収集③】 硫黄島戦没者遺骨収集派遣 に参加して

水交会 渡部 幹昭

10月12日(火曜日)・・・(作業7日目)「233-J-25」「183-W-1」
午前は25号ポケットの収容作業を実施した結果、御遺骨の収容、壕底の確認を実施して作業は概し御遺骨1柱は自分が保持して安置室に安置した。結果として「233-J-25」からは2柱の御遺骨を収容した。その後分遣隊は「183-W」に転進して本隊と合流、同地域において作業を開始し午前の作業は09:40で終了した。

10:30から海上自衛隊厚生館において実施された土産物販売において各自硫黄島来島記念としてTシャツ、ワッペン、洋菓子等の土産物を買入した。
午後からは作業が概した「234-C-212」「233-J-24」「27-32」を全員で拝礼するとともに作業結果の確認を行った。また「183-W-1」からは御遺骨3柱を収容した。
全体ミーティングではこれまでに9柱の御遺骨を収容したこと、氏名判明等の手掛かりとなる遺留品として認識票5枚(2「12」4枚、「233-J」1枚)を発見したことがそれぞれ報告された。弾薬班からは「183-W-1」の様な海岸の砂浜

では(土質が柔らかいため)不発弾などが埋まっているかわからない。例えば黄燐弾は煙が出たらすぐに土をかける、米軍のバイナッフル式手榴弾は触らずそれぞれ速やかに弾薬班に連絡することの伝達があつた。

10月13日(水曜日)・・・(作業8日目)「183-W-1-2」

午前は「183-W-1」において土砂のフルイ作業を実施、最終的に御遺骨収容を確認して作業を終了し概しとなった。午後は「183-W-2」に移動して山積みされた土砂と隣接する崖の土砂を箕で運びフルイにかける作業を実施しそれぞれから御遺骨を収容した。

本派遣期間中は天候に恵まれていたが、この日初めてスコールに見舞われ車両もしくはテントに退避した。自分はずぶ濡れとなったものの作業終了時には半乾きの状態にまでなつた。南の島の日差しの強さについて身をもって体験した。

作業間の休憩中、搜索現場南方に「海軍南砲台」があり他の団員数名とともに見学に行った。拝礼して中に入ると激しい攻撃を受けたため砲の台座しか残っていない。そして弾痕がおびただしく無数のひびが入り一部が剥落したトーチカ内部左側面のコンクリート壁面に白色で書かれた「訓練第〇」「初弾必中」「水際撃滅」「冷静沈着」「連撃保持」「確実迅速」「〇遂行」「〇〇練」の文字が目飛び込んできた。(写真参照)



この言葉を書き記した海軍軍人の身命を賭して幾多の戦闘を乗り越え感得したであろう真理を伝える言葉の迫力を強烈に感じるとともに、同人の書き記した何時如何なる場合も基本に忠実に事に当た

千鳥ヶ淵戦没者墓苑納骨一覧表(年度・地域別)

令和4年5月30日現在

地域別	昭和		平成													令和					合計	戦没者数		
	34~63	元~26	27.2~4	27.5.25	27.7~11	28.3~5	28.5.30	28.7.20~12.21	29.4.7	29.5.29	29.7.25~10.2	30.1.19~4.13	30.5.28	30.7.17~12.2	31.2.18	元5.27	元6.7~12.23	2.3.18~10.30	3.1.25~5.11	3.10.20~4.5.17			4.5.30	
北 辺	886																						886	231,000
本土及び周辺 沖縄・硫黄島 方面不明	10,201	2,791	-5	151			84			22				461		17			37			9	13,768	
中国(旧満州)	37,594																						37,594	245,400
中国(除旧満州) 台湾	38,784	2																					38,786	561,100
朝鮮	480	3								1													484	
フィリピン	90,643	4,292				4																	94,939	518,000
ベトナム マレーシア インドネシア	8,345	1,532		61			2															-5	9,935	248,300
ミャンマー インド	35,924	156		1			1			10				13		12							36,117	
中部太平洋 ニューギニア ソロモン諸島 ビスマルク諸島	107,388	8,706		1,788			808			625			446			120						31	119,912	546,300
ロシア (旧ソ連)	37	10,947	-1	497	-7	-2	1,438	-15	-4	1,777	-6	-7	932	-15	-5	776	-9	-210	226	-49	176	16,476	54,400	
モンゴル ノモンハン		1,369	-2		-1	-1		-1	-1	20	-1			-2								-8	1,372	
合計	330,282	29,798	-8	2,498	-8	-3	2,337	-16	-5	2,455	-7	-7	1,852	-17	-5	925	-9	-210	255	-54	216	370,269	2,400,000	

※1 戦没者は軍人、軍属、一般邦人を含む。

※2 -(マイナス)の数値はご遺族に伝達された数等を示す。

(第二面からつづく)
この言葉の一つ一つの真理は戦場における海軍軍人の根幹ではないかと思料した。今を生きている者として耳ざわりの良いスロークンが単なる言葉としてもてはやされる傾向のある現代、その言葉の持つ本質とは何かを常に考えなければならぬと改めて教えられた。作業終了後、収容した御遺骨を捧持して帰投し安置室に安置した。

全体ミーティングでは「1831W1」において収容した御遺骨は1柱、これで収容した御遺骨が計10柱(「212」4柱、「233J」2柱、「183W」4柱)となった旨報告があった。また、「233J」25「②」の御遺骨下から発見した遺留品の認識票は、調査の結果久留米編制の独立混成第2旅団中迫第2大隊第2中隊所属の軍人のものであることが判明したこと、弾薬班からは手榴弾2発、小火器弾薬61発を発見したことがそれぞれ報告された。

・10月14日(木曜日)・・・(作業9日目)「1831W2・3」

午前は前日に引き続き「1831W2」の搜索作業を実施、「司」「ホソガヤ」と蓋に手彫りで刻印された石箱(セルロイド製)を遺留品として発見した。午前中をもつて同地域の搜索作業は概了となった。午後は「1831W3」の搜索作業を実施した。同現場での作業はかつて重機によって積み上げた土砂の山を崩しながらフルイ作業を実施し御遺骨の収容にあたるものであったが若干の骨片を収容して継続案件となった。

全体ミーティングでは千鳥ヶ淵戦没者墓苑において実施される厚生労働省への御遺骨引渡式の際の御遺骨箱は最終的に10箱となること伝達された。

・10月15日(金曜日)・・・(土工具類等の洗浄・格納作業)

07:20、作業出発のため集合するもスコールにより待機となった。07:35、宿舎を出発したが断続的な降雨のため現地に於ける作業は困難と判断され午後から実施する土工具類洗浄・格納作業準備のた

め、搜索現場において使用した箕・フルイ・スコップ・鋤簾等の全土工具類を現場から撤収して宿舎へ運搬し午前の作業は終了した。08:30から待機となったため各自荷物整理を行った。

13:20、団員は宿舎裏に洗浄作業で濡れてもよい格好で集合し土工具類、ビニールシート等これまでの作業で使用した備品類を全て洗浄・天日干しし、15:00からはこれを倉庫に格納して15:30作業は終了した。

本日をもつて搜索作業は終了となった。全体ミーティングでは今後の現地追悼式慰霊巡拝、自衛隊による御遺骨見送り式、御遺骨捧持者の指名等の説明・伝達が行われた。

・10月16日(土曜日)・・・(現地追悼式・慰霊巡礼)

現地追悼式は09:40、安置室前に正装にて全員集合ののちバスに分乗して式場である硫黄島戦没者の碑(天山慰霊碑)へ移動、10:30から海上自衛隊硫黄島基地隊司令、航空自衛隊硫黄島基地隊副司令出席の下挙行された。式は黙禱ののち追悼の辞を团长及び遺族代表(日本遺族会)が読み上げ、最後に全員が献花を行う。10:50終了した。

慰霊巡拝は事前に希望場所等を団体毎に聴取の上決定され2箇班に分かれて実施された。自分の所属班は、車上からの拝礼等を含めて18箇所を慰霊巡礼(巡礼順に①⑧の番号を付す)した。順路は時計回りで宿舎から摺鉢山方面に向かい島の沿岸部を進みほぼ島を一周した後最後は連日通いなれた「234C」「233J」の搜索地域から宿舎へと戻る経路であった。

①「鎮魂の丘」...綺麗に整備されブーゲンビリアの花が美しく咲いていた ②「米軍将兵の碑」 ③「再会記念碑」...米軍が上陸した南海岸を左手に見ながら進み車上から拝礼 ④「海軍水平砲台」...踏み分け道の坂を上るとすぐに到着し砲台周辺はよく整備されていた。昭和20年2月16日硫黄島防衛戦はここから始まったと言われている場所に立ち往時をしの

び感慨無量であった。⑤「南観音」...観音像等を拝礼 ⑥「航空機利用のトーチカ」...航空機の機体を利用したトーチカを見学した。同トーチカは周回道路から50〜60メートル位背丈程もある草が生い茂った道なき道を進んだ先にあり、機体を外側から分厚い鉄筋コンクリートで固めた強固なものであった。⑦「鶯地獄」...噴気孔 ⑧「米軍沈船群跡」 ⑨「釜石」...奇石群 ⑩「硫黄島島民平和祈念墓地公園」...下車見学。「鎮魂の丘」から同公園に至る道路は未舗装かつ悪路で車の動揺が激しく、特に「釜石」から同公園の間は隆起した海岸の真ん中にある砂州上の道路をスタックしないように運転するのが大変そうであった。因みに平成26年国土地理院の調査によつてそれまで小笠原諸島最大の島は父島であったが隆起の激しい硫黄島が同島を抜き一番になった。

⑪「医务科壕」...壕内に照明設備が設置されたものの岩が崩れ落ちて両方ともほとんど塞がれており入口付近で御霊安かれと拝礼 ⑫「硫黄島神社跡」...鳥居が建てられ御社も建立されていた。硫黄島に所在する自衛隊有志の方々で維持・管理されていると聞いた。⑬「硫黄ヶ丘」...これまでの重熱帯気候の緑豊かな景色とは一変して噴気孔から蒸気が噴出しあたり一面硫黄で覆われまさに火山の景色そのものであった。⑭「天山壕」...午前に追悼式典が行われた「硫黄島戦没者の碑」に赴きその直下にある同壕を拝礼 ⑮「北観音」...天山壕北側に位置し拝礼して硫黄島をほぼ一周した。⑯「海兵隊壁画」...「234C」「233J」近傍にあり米軍軍人が制作 ⑰「米軍戦車残骸」を見学し、15:50宿舎に帰投した。

・10月17日(日曜日)・・・(自衛隊による御遺骨見送り式)ハハサル・部屋の清掃・荷物整理

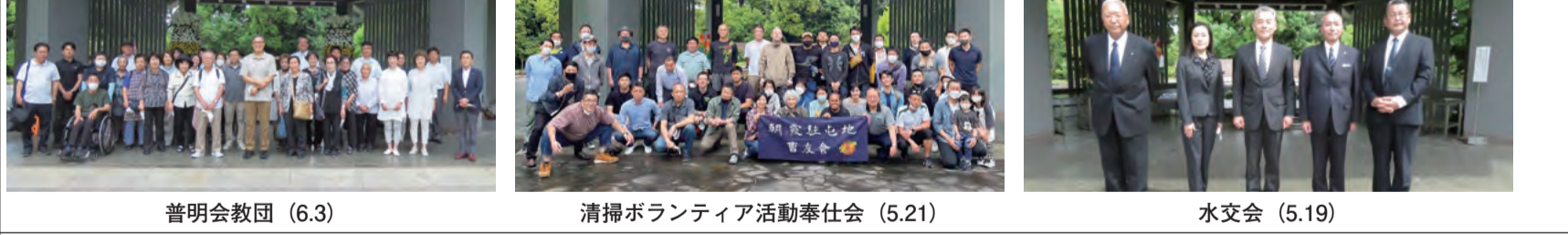
07:20から07:50まで自衛隊による御遺骨見送り式ハハサルを実施、その後各自荷物の荷造り・部屋及びトイレ・シャワー等の清掃を行って11:00から点検を受け明日の離島に備えた。



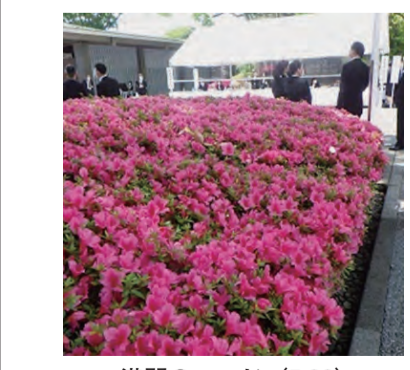
クラスノヤルスク遺族会 (4.17) 清掃奉仕中の齋藤宜明様 (4.16) 喇叭保存会 (4.10) 比島ミンダナオ方面戦没者遺児の会 (4.9)



千代田を明るくする会 (5.15) 千代田区海洋少年団 (4.23) 喇叭伝承会 (4.17)



普明会教団 (6.3) 清掃ボランティア活動奉仕会 (5.21) 水交会 (5.19)



満開のつつじ (5.30)

◎奉納・参拝団体・参拝者(敬称略、順不同)
蒲郡市遺族連合会、比島ミンダナオ方面戦没者遺児の会、クラスノヤルスク遺族会、龍雲寺、法華宗(本門流)宗務院、普明会教団、浄土真宗東本願寺派本山東本願寺、水交会、遠洋練習航海部隊、東京葵ライオンズクラブ、厚労省副大臣、菅谷高一、青木嘉昭、米原恭淳、藤原淑子、芹川いち子、笹 隆治、哲子、秀平良子、山本勝久、石井麻紀子、村上 健、サムリス・トゥリサンティア、奥住栄子、今井 聡

◎奉仕会年度会費納入者・団体(敬称略、順不同)
エコー株式会社、村田瑞穂、本田敏美、采女親範須崎久美子、矢吹宏行、山口格夫、市野昭一、滝沢宏子高橋信行、横山則義、向井市朗、加藤憲一、柿沼典子村田克彦、鹿又諭隆、加藤史明、岩田司朗、塩田益也橋間元徳、麓川昭恵

◎新入会員(敬称略、順不同)
矢島由美子、繪鳩 彰、平野千代子

◎参拝団体(前項以外、敬称略、順不同)
喇叭保存会、喇叭伝承会、千代田区海洋少年団

◎清掃奉仕(敬称略、順不同)
阿含宗、桜晴れ戦没者慰霊奉仕団

◎献花台奉仕者(敬称略、順不同)
駿東流(小泉恵華、御園奈美江、御園まお)、柴山古流・縁山流(井上冷美、本多冷花、関口冷竜、沼田冷笑奥島冷恵、古川冷京、菊地冷瞳)、古流わかば会(武藤理春、武藤理高、武藤理恵、秋葉理恵、金澤理代、丸山理宛)、五十鈴古流一曉派(蟹江一岬、金井一琴、横浜一智、前田一寿、蟹江玲子、高野育枝)古流正華道(芹沢千啓、瀬下千佳代、瀬下峻太郎、谷本千裕希、森山千裕、内田裕甫、京葉古流(小浦一條、渡邊一葉、原一志、内藤一春)古流桜会(川合理千、本加理威、池谷理智)

令和4年5月31日まで受付分を掲載、6月1日以降受付分は次号に掲載します。

各団体の慰霊参拝

昭和天皇御製碑

秩父宮勢津子妃殿下揮毫

くのためにのら
さざげしひとくらの
ことをおもへばむねせまり
くる

【かけがえない日本、

かけがえない世界⑫】

広報紙「千鳥ヶ淵」が繋いで

くれた東京ヤゴダ会主催

鎮魂慰霊祭への参加

吹田市 渡邊 修

私の祖父である故林立平の死亡時の状況は、平成19年に出版された故村山常雄氏の「シベリアに逝きし人々を刻す」によって初めて明らかになりました。祖父がシベリア抑留中に死亡したことは断片的に聞いておりましたが、新聞の死者名簿にも掲載されず長い間不明のままでした。祖父は昭和21年9月27日、ソビエト連邦イルクーツク州、タイシエト地区トポローク、第7収容所、第3370病院で36歳の若さで死亡していることが判明しました。故村山氏によると既にトポロークでの収骨作業は終わっており、遺灰が千鳥ヶ淵戦没者墓苑に帰還したのであるとの事。当時としてはDNA鑑定ができず特定には至りませんでした。偶然にも祖父の命日が私の誕生日と同じで尊い縁を感じました。

上皇陛下御製碑

常陸宮華子妃殿下揮毫

戦なき世と
歩みきて思い出づ
かの難き日と
生きし人々

亡くなる数時間前に「シベリアに逝きし人々を刻す」の本が届き、私達はこの本を持って病院に駆けつけ、祖父の名前が記されているページを開き、祖母の枕元に置きました。祖母は既に意識はありませんでしたが、祖父を感じたかのように目から涙が溢れ、その後、安心したかのよう息を引き取りました。

その年の12月23日、私達親族一同は福岡県から上京し（私は当時愛知県在住）、千鳥ヶ淵戦没者墓苑を参拝、祖父の足跡を辿るまでに時間はかかりましたが、それぞれの思いで参拝でき、私達の心は安らぎました。

この時の参拝の様子が、翌年の広報紙「千鳥ヶ淵」（平成20年3月1日発行、第470号）に掲載され、それをご覧になった東京ヤゴダ会の前会長故茨木治人さんが、私の実家のある福岡県朝倉市役所に手紙を書いて下さり、私を探して下さいました。そのご縁があつて、平成20年より毎年11月3日、東京ヤゴダ会主催の鎮魂慰霊祭に参加させて頂いております。

茨木さんは数年前にお亡くなりになりましたが、東京ヤゴダ会の皆様の温かいご配慮により、毎年無事に参拝することができ、親族一同、心が安らいでおります。慰霊祭に参加させて頂く中で、茨木さん初めシベリア抑留体験者の方々の生の声を聞いたことにより、シベリア抑留の過酷さと理不尽さを直に知ることができました。

また慰霊祭にご参列下さっているJYMA日本青年遺骨収集団の職員や学生の方々と交流を深めることができ、改めて遺骨収集の尊さを知ることができました。私も生前の祖母と約束を交わしたシベリア墓参を実現させたいと考えています。

広報紙「千鳥ヶ淵」の掲載からご縁を頂いた東京ヤゴダ会の皆様との交流は、私達親族に取りましてかけがえないものとなりました。厚く御礼申し上げます。今の日本の平和と繁栄が、多くの戦没者の方々の尊い命の犠牲の上に築かれたものであることを考える時、私達がシベリア抑留の記憶を、次の世代に如何に繋

いでいくのか、その思いを一層強くしました。祖国の平和と繁栄がこれからも永続するよう、弛まぬ努力を続けていきたいと思っております。

暑中お見舞い申し上げます。

令和4年 盛夏

- 日本遺族会
- 中央乃木会
- 東郷郷会
- 借行社
- 日本郷友連盟
- 英靈にこたえる会
- 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
- 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
- 水交会
- 三笠保存会
- 靖国神社
- 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

墓苑便り(奉仕会だより)

7/8月の献花予定

- 1 日新流 小田切博新
- 藤栄流 落合 一文
- 古流わかば会 武藤 理春
- 古流茂風会 大藤 茂風
- 国際華道如心流 若林 宏峯
- 草翠流 林 草水
- 松葉流古流 田中 一秀
- 遠州流一森会 名鏡 一玲
- 美風池坊 小島 美陽
- 2 奉仕会新評議員・理事の就任
- 次の方々に評議員・理事としてご就任頂きました。
- 評議員 眞野 章(元社会保険庁長官)
- 理事 杉本 順則(常務理事)
- 保松 秀次郎(常務理事)
- 盛川 英治(理事、日本遺族会事務局長)



こどもの国 ふれあい学び館



宝くじ桜



一輪車



ユニバーサルデザイン施設ピクニックテーブル



移動採血車

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。



地震免震体験装置



フラワープランター



総合検診車



テント



消防団防災学習・災害活動車両



ドリームジャンボ絵本

